

## 名古屋市における交通実態調査について その2 内容

名古屋大学 学生員 ○ 三星 昭宏  
 名古屋大学 正員 河上 省吾  
 名古屋大学 正員 青島 総次郎

### まえがき

近年の都市問題のなかで、交通事故・交通公害などの交通災害は大きな位置を占めてきている。それらを日常の生活環境の一部としてとらえ、便利性の確保も含めた幅広い交通環境の向上が必要となってきた。本調査研究はや広い交通計画のためのデータを得ることと、その基礎的な考察を行なうものである。ここでは7月に実施したパーソントリップ調査とアンケート調査の内容を述べる。

### 1. 調査の目的と意義

図-1に示すよう目的で調査を行なった。

1). 市民の交通手段選択・経路選択などを考察するためパーソントリップ調査を行なった。

2). 徒歩交通・自転車交通の特性を把握し、歩行者圏域構造を考察するため、パーソントリップのうち徒歩トリップを独立させて調査を行なった。従来交通計画において徒歩交通は量的適応性が高いためもあり必ずしも大きな位置を占めてはいはず、パーソントリップ調査でも徒歩交通トリップは系統的にとりえられていなかった。しかし徒歩は日常生活の一部であり、生活環境低下が問題となってきている。今日、多様な交通目的に対応した安全・快適・便利な徒歩交通システムを再構成する必要が出てきていると思われる。

3). 2)と関連し、最近日常生活環境の悪化をもたらしてきた交通騒音・住区内交通事故に対し、フィジカルな実情把握と、住民の意識に反映された被害状況・潜在的被害状況とを対応させながら考察していく必要がある。今回は騒音・交通安全を視点とした実情の一端と意識をアンケート調査した。

4). 2), 3)で述べた問題はとくに既成市街地住宅地域に多いことから、名古屋市の住宅地域・商住混合地帯を対象にして調査し、またこれにより地域差を調べることも目的とした。

### 2. 調査の内容

図-1に示したような4つの体系で調査項目を作成した。用紙の構成は、1).世帯属性および世帯に

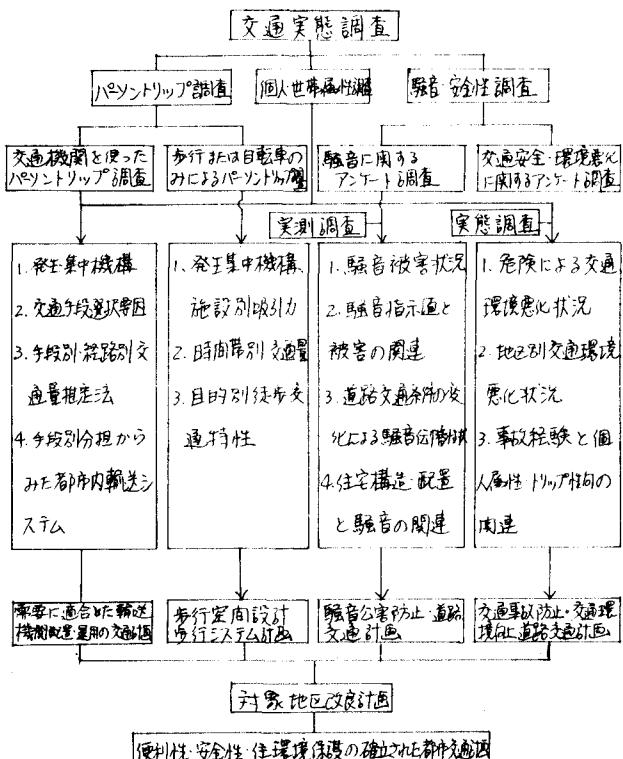


図-1 調査と解析の方針

共通する内容の「世帯票」、2)個人属性および徒歩自転車のみによるトリップ調査の「個人票1」、3)以外の、交通機関を利用したトリップ調査の「個人票2」、4)交通騒音および交通規制に関する意識調査の「個人票3」の計4枚とした。

1). 世帯属性(各調査目的に個別に関連する内容は後述する):住所・学区・家族構成・収入・住宅所有形態・住宅の性格(専用・併用)、のほか、自動車・自転車の有無・台数・道路環境(自家前道路幅・舗装・歩道・自動車交通量の程度)、都心までの所要時間・もよりの駅名とそこへの所要時間などとした。

2) 交通機関を利用したトリップ: 中学生以上の1日のトリップを対象とした。東京・大阪で採用されたパーソントリップ調査用紙を参考にして設計した。トリップの定義は「人が目的をもってある場所からある場所へ移動すること」とし、同一施設内の移動はトリップに含めないこととした。項目は、出発地・出発地の施設・出発時刻・到着地・到着地の施設・所要時分・目的(図-2)、交通手段・経路選択理由・利用した自動車の種類・乗車人員などとした。

3) 徒歩自転車のみによるトリップ: 住宅地内徒歩交通把握を重視した今回の調査では、自宅から自宅まで徒歩のみの外出をここで扱うものとし、交通機関の乗り継ぎ項目が不要となるため大巾を整理ができるところから独立した用紙を作成した。また外出枚数のチェックのため外出回数項目を設けた。項目は、出発時刻・目的地(図-3)・目的施設・所要時分とした。特徴としては、目的地に「家の前」「隣近所」「同じ町内」とまとめたこと、目的施設に「広場」や「道ばた」などが入っていることである。用紙では5回目までの外出を印刷し、5回以上は裏に書くようにした。(なお交通機関を利用した外出は7トリップまでを印刷し、それ以上は回数だけ分けることに作成した)。

4) 交通騒音: 交通騒音の項目は、①騒音源・騒音の程度、②騒音による聴覚・思考・睡眠妨害の程度、③身体的情緒的影響、④騒音の時間帯、⑤とくにうるさいと感する騒音の種類とした。これらをもとにして交通騒音公害存在地域と影響の質的把握、性別年令別の騒音被害特性、住宅構造・配置と騒音の関連、交通量の程度、騒音指標値と被害特性との対応を分析していく。この調査は、住民の被害感・意識を調べることと特徴としている。

5) 従来行なわれてきたような安全施設の要望などは省き、交通事故経験がトリップ特性に与えた影響、自分の学区内で遭った事故の割合、自家前道路に対する危険感、交通規制に対する要望の強さなどを調べ、地域的比較を行なう。すなわち事故や安全施設そのものの調査ではなく、潜在的な事故発生可能性による交通環境、日常生活環境の悪化を把握することを目的としている。項目は、自分の事故経験、家族の事故経験、その規模と発生場所、乗り入れ規制を行なうことに対する自分の態度、子供の遊び場、自家前道路の危険感などとした。

### あとがき

本調査にあたって協力を頂いた名古屋市交通安全対策会議・対象住民各位に感謝する次第である。

交通目的の種類

1. 出勤・就校	7. おけいこ・塾など
2. 娘社・婚校	8. レクリエーション・観光
3. 通 学	9. 疗療(つきいを含む)
4. 買物・食事・家事など	10. 教育・研修・勉強
5. 会議・休養など	11. 家族(10名以下)
6. 会合・訪問・送迎	12. その他

図-2 交通機関を利用したトリップ目的

目的地におけるかか る所要時間	その目的は何でした か。次から選んで、 ( )内に番号を書いて 下さい。
1. 家の前	1. 出勤・就校
2. 隣近所	2. 買物・食事・家事など
3. 同じ町内	3. 会合・訪問・送迎
4. 通学者	4. 疗療・医師上の目的
5. 自 宅	5. おけいこ・塾など
	6. 旅 里
	7. 遊歩・サイクリングなど
	8. 運動・娛樂・飲食など
	9. 婚 社
	10. その他

図-3 徒歩および自転車でのトリップ目的